

オオサカン楽員の 楽器の小屋～オオサカンサウンドの源～

楽員と楽器の関係を探る連載企画、第1弾は **\\E♭クラリネット奏者 小山 陽子！//** バックーンアーティストの肩書きを持つ彼女は、常に最適なパーツの組み合わせを追求し、演奏曲や会場に合ったステキな音色を奏でています。楽器へのこだわりや大事にしていることは…？ E♭クラ(エスクラ)についてじっくり伺います。

E♭クラリネット
小山 陽子 Yoko Koyama



現在使っている楽器は？



左：Crampon Prestige
(クランボン プレステージ)
右：Selmer Recital
(セルマー レシタル)

この楽器を選んだ理由や気に入っているところは？

主に使っているのはプレステージです。エスクラ特有の輝かしく伸びやかな音色を持ち、息を入れた通りの表現が実現するとても素晴らしい楽器です。この楽器を軸に、私がいつもお世話になっている楽器メーカーバックーン社の社長モーリー・バックーン氏にオーバーホールを依頼し、音程・音色を全て私好みに調整していただいている世界にひとつだけの楽器です！（モーリーはいつも「Yokoの好みは全て分かっている！」と教えてくださいるのでとても心強いです！）さらに私は手が小さく扱いにくいキィがあるため、2箇所キィを伸ばし、コルクでかさ上げし、高さを出しています。レシタルは、さらにバンドに溶け込んだ音色を出したいときに使うため最近購入しました。これから仲良くなっていければと思います！



リードやリガチャーなど、お気に入りのパーツは？



左から
リード：①レジェールB♭クラリネット用
ヨーロピアンカット3/12
マウスピース：②Backun MoBa ③Backun CG
リガチャー：④Silverstein Ligature HEXA
パレル：⑤Backun Tulipwood 40.5
ベル：⑥Backun Tulipwood

【リード】普段使用している①よりさらに細い音が求められる場合はE♭クラリネット用ヨーロピアンカット3/12を使う場合もあります。

【マウスピース】Backun CGは柔らかい音色と高音でも痩せない音色が魅力で、Backun MoBaはクリアな音色と歯切れの良さが特徴です。MoBaは最高音域でもクリアな音が出せるようモーリーに細工していただいた特注品です！

【リガチャー】(リードをマウスピースに留めるための道具)
常に10個は持ち歩き、ホールの環境や唇の腫れに応じて変えています！

【パレル】(マウスピースと楽器本体をつなぐ道具)
裏面に切り込みがあり、B♭クラリネットのリードも使える仕様になっています。これにより表現の幅が劇的に広がりました！
明るく柔らかい音色が特徴のチューリップウッド製を愛用しています。また、切り込みと③のCGが面一になるようにモーリーに調整していただいています！

【ベル】パレル同様チューリップウッドを愛用。
音色の変化はもちろん、無理をしなくても豊かに響く設計になっています。こちらモモーリーに調整いただいております、YOKOの刻印がお気に入りです！

ここが
切り込み

楽器ケースのこだわりポイントは？

E♭クラリネットはあまりケースを選ぶことができないため純正のものを利用しています。こだわりはケースを入れるバッグの方。楽器専用のバッグではないのですが、Evoonのビジネスバッグを使っています。

普段12cmの奥行が、真ん中のファスナーを開けると22cmになり頑張ればE♭2本B♭1本が収納できます！さすがに3本持ち歩くことは少ないですが、衣装や譜面台も入るのでとても助かっています。見た目はただの真っ黒なビジネスバッグですのすぐに見えてわかるようペンギンのスノードームのキーホルダーをつけています！



ペンギンの
スノードーム

楽器ケースの中について、ポイントを教えてください！

とにかく塵やほこりが溜まらないよう注意をしています。E♭クラリネットはとても繊細な楽器ですので、トーンホールやキィの間に塵が付くなど小さな変化で鳴りや音程が変化します。常に安定した状態を保つためケース内の掃除はこまめにするよう気をつけています。



楽器を演奏する時に大事にしていることは？

一音一音にこだわりを持つこと。オオサカン名誉音楽監督の木村吉宏先生の教えの中でも特に大事にしている言葉です。楽譜に書かれた音は、音符の羅列ではなく全て表現を持って命を吹き込む必要があります。今は木村先生に「ほんまにそうかー？」「よう考ええ」と言っていたくことはできませんので、常に一音一音に向き合うようにしています。

あなたにとって「E♭クラリネット」とは？

もう一人の自分、です。楽器の調子は全て私の行き通りです。だからこそ、常に自分に正直で、真摯でなければと思っています。楽器を吹くことは思いどおりならず辛いこともあります。やはりこの先もこの楽器たちと苦楽を共にし、そしてエスクラの可能性を追求していきたいと思っています！

